04 子供たちにゴルフ場を開放 有料化で参加者は減った？

「6年ぶりの開催で、今回から小中学生の参加費は1人500円。有料化して、それでも参加者は集まるのか？ ゴルフ場の潜在能力を試したかったのです」

鹿沼グループの鹿沼72CC（栃木県）は8月5日、コロナ期間の休止もあり、6年ぶりに「第8回ごるふぁみふぇすた」を開催した。

冒頭のセリフは、同CCセールスマーケティング部で企画責任者を務める井上里美ディレクター。ゴルフ場を近隣の親子に開放する催事を今年から有料化した。

45ホール中、富士コース9ホールをクローズして、6ホールで気球体験、コース探索、じゃぶじゃぶ池、パターゴルフ、ワークショップ、スナッグゴルフを楽しんだ。有料の小中学生が44人、無料の保護者や未就学児は44人、計88人が炎天下のゴルフ場に集まった。

鹿沼グループの荒川真理部長（マーケティング広報部）によると、「日本列島が沸騰しているど真ん中の開催ということで、朝7時半から11時半までとスタートを早め、開催時間も短縮しました」

それはともかく、冒頭のセリフ。井上ディレクターが有料化への想いをこう話す。

「6年ぶりの開催なので、それ以前に来てくれた子供たちは中学生か高校生になっています。今回参加した子供は初めてなので、ゴルフ場は謎の空間だと思うんです。謎の空間のお祭りに子供が関心をもつのか、保護者が500円払ってくれるのか？ それを確認したかった」

結果「88人」は、2019年の前回（約500人）に比べて大幅減。500円は、それほど高い料金なのか……。気球に乗って空高く舞い上がれる。きれいに掃除した池で水遊びを楽しめる。にも関わらず、無料の前回比で5分の1以下の人数は、残念な結果に思えるが、井上ディレクターは別の要因を指摘する。

「前回までは鹿沼市教育委員会の協力を得、小学校等にチラシを撒いたのです。それで沢山集まったわけですが、今回はPR活動が疎かになってしまい、その結果が今回の人数。PR不足なのか、それとも料金のせいか……来年以降も動向をチェックしていきます」

ゴルフ場でシャボン玉を飛ばす子供たち

これとは別に、イベントには社員総出で取り組むという社内的な効果もある。揃いのユニフォーム（紅白のアロハ）を着て、新入社員も大汗をかいて奮闘。同社のイズムを体感する機会といえるだろう。フロント担当の益子波奈さんが、自身の体験と併せて催事の印象を語る。

「私は小・中学生とジュニアの試合に出ていました。でも中学生の試合で、同伴競技者の規則違反に巻き込まれて失格に。それでゴルフが嫌になってやめてしまったのです。振り返って思うのは、子供の頃にこのイベントを体験して『ゴルフ場って楽しい』と思えてたら、ゴルフを続けられたかもしれません」

そんな体験があるからこそ、「このような機会を提供できることが、本当に嬉しいんです」

栃木県内に3コース、108ホールを展開する鹿沼グループは、狭い商圏に集中したドミナント戦略で地元との絆を深めている。

福島範治社長は栃木県ゴルフ場協議会の副会長を務めるなど、ゴルフ場の地域貢献活動に前向きで、その一環が今回の「ごるふぁみふぇすた」でもある。さて、来年は500円で何人集まるのか？ （吉村）